怡土人権だより

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部
略 称：市同協怡土支部

令和７年度
第３号
Ｒ８年３月１日発行

人権映画祭

お終活 熟春！

人生、百年時代の過ごし方を鑑賞して

俳優・橋爪功さんと、高畑淳子さんが演じる熟年夫妻に展開される「終活」騒ぎ。

仕事や子育てが一段落した熟年夫妻の物語という設定が、来場者の皆さんにとっては身近な筋書きとして受け止められたようです。

定年退職後ずっと自宅にいる夫に在宅ストレスを抱える妻。そんな妻に対して、夫もまた自分勝手にふるまい、それぞれに愚痴をこぼす日々が続きます。口を開けば喧嘩になる二人の関係は、もはや破局寸前ではないかとさえ思えます。十分に感情移入させられるストーリーと、連続する愉快な場面とに、上映会場は笑いが絶えませんでした。

一方で、人の心を傷つけるような言葉もでてきます。



葬儀社の若い青年社員は、終活の紹介で熟年夫妻の自宅を訪問しますが、葬儀社員であるために「縁起でもない」などと、夫からの心ない言葉を受けます。予期せぬ妻の入院に気落ちする夫に向かって、友人たちがかけた言葉は、なぐさめのつもりだったのでしょうが、決して夫の心を癒すことにはなりません。



ある日若い女性を連れて現れた夫の友人が発した言葉は、「生きているうちに楽しむだけ楽しまないとな」…とがった言葉の一つひとつは、いかにも私たちの身の回りにもありそうです。

現実にそれらの言葉が私に降りかかってきたなら、心穏やかではすまなかっただろうと考えさせられる場面でした。



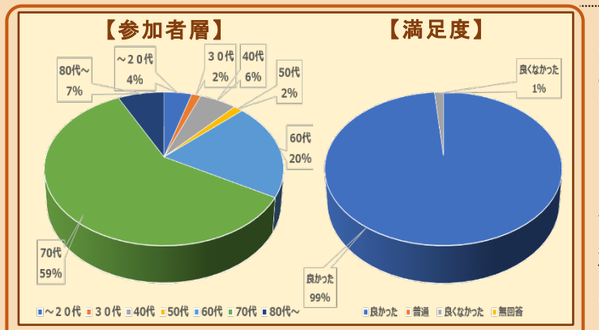
終活フェアに始まった騒動は、紆余曲折を経て、思いもよらないことに熟年夫妻の金婚式を、葬儀社の協力で挙げることとなります。

そもそも伴侶となった出会いの縁、そこから重ねてきた悲喜こもごもの人間模様が、そのままでかけがえのない人生だったと見つめなおせた二人に、最後はふんわりとした、あたたかい空気が流れます。

そんなぬくもりこそが、人権の尊さをつたえているようでした。

【井原行政区推進委員】





【感想（抜粋）】

- 改めて生き方について考えさせられました。映画の中にも、いろいろな差別について考える場面がありました。参考になりました。
- 私、現在７６歳。丁度、同年頃に結婚し、子供が成長し孫が５人…昔を思い出しながら…なつかしい楽曲と共に～良かったです。「熟活」人生百年を目指し、楽しく元気に、これからも思い出を作って生きていく目標が出来ました。ありがとうございました。
- 涙が出た。思いやりの大切さがわかりました。反省の点とチャンスを与えられたと思います。
- 役員の方は、大変でしょうが年に２回ぐらいあったらいいなと思います。
- 私たちの身の回りには、様々な人権問題が存在していると思います。特に近年は、スマートフォンを介する課題など複雑・多岐にわたっているのが現状ですが、基本は、お互いを信じ、尊重し合うことに尽きるのではないでしょうか。なかなか解決は難しいけど、地道に啓発活動をしていくしかないと。
- 人生百年、残りの人生を改めて考える機会になりました。
- 一生懸命、啓発活動をされているのが、よく伝わってきます。
- 人生百年残りの人生を改めて考える機会になりました。

小中学校とＰＴＡ役員との連携を深めるために

茶話会を実施しました！

人権映画祭の後に、前原東中学校と同ＰＴＡ、怡土小学校と同ＰＴＡ、及び民生児童委員との意見交流を茶話会という形で行いました。

目的は、それぞれの組織が困っていることがあれば、相互で協力しあって、おのおのの活動を助け合っていけたら、互いの活動を更に充実することができるのではないかというところにあります。



残念ながら、中学校と同ＰＴＡは都合がつかずに参加いただけなかったのですが、小学校ＰＴＡの取組みについては、なかなか厳しい現状があり苦労されていることがお話を聞いて良く理解できました。

怡土校区運営委員会にも関係してくることはありますが、「地域の子どもは地域で育てる」という以前からの理念のもと、お互い協力出来るところを探しつつ、無理のない形での相互連携を強化していきたいと感じたところです。

小学校も、コミュニティスクールという視点も含め「怡土リンピックの復活」・「学校業務支援体制の強化」などもっと連携していける道を探求していきたいと感じたところでもありました。

来年度は、人権講演会の日も含めて、年２回校区のいろいろな団体と茶話会を取り組んでいきたいと強く思っています。

【支部長】





フィールドワークに参加して

瑞梅寺行政区推進委員

今年は、「石炭産業の歴史と人権」をテーマに筑豊地方の田川市石炭・歴史博物館と飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸に行きました。

明治初期から昭和３０年代まで筑豊地方は石炭産業が盛んで、特に昭和１５年は2,049万㌧の最大出炭量（全国の３６％）を誇り、筑豊地方の発展に寄与していました。出炭量が増えるにしたがって、石炭をほりだせる土地が被差別部落と重なっていることが多かったためその土地を奪うかたちで多くの炭鉱が開かれたために、被差別部落の人たちは生活基盤だった土地を失い、自分たちの住んでいた土地から遠く離れた炭鉱で臨時雇いでしか働くことができない状況となり、他の地域からの流入者「よそ者」と呼ばれた人たちを含めて差別される人々が増えていきました。





日中戦争から第二次世界大戦が終わる時期は労働者不足により、女性や朝鮮半島からの労働者で補っていました。

その石炭採掘は劣悪で、日々危険と隣り合わせであることが、山本作兵衛の作品でよくわかりました。

今回の視察で私が知らなかったことが２点ありました。

日本最大の産炭地として安全で効率的な採炭のため、常にその時代の最先端の技術が導入されていたこと。

各炭鉱主が地域の教育に力を注いでいたことです。

日本の近代化は石炭産業の発展を抜きにしては語れないが、田川地域では石炭産業の発展がそのまま被差別部落の歴史と重なっていることを学習しました。



あとがき

私は保護司としての活動から、犯罪の根本には貧困があることを知りました。

貧困は経済的なものから心、孤独、孤立などいろいろ多岐にわたります。私たちは多くの人たちと関わって生きています。家族、親戚、友達、地域の人など。

一方で、現代社会を見ると核家族で、しかも共働き家庭が大多数となり労働条件も厳しくなっている環境下、それぞれの家族だけでは解決できない問題を抱えながら、孤立した生活を余儀なくされている家庭も増えていて、地域活動や隣近所との付き合いも出来にくい社会状況があると思います。嘆かわしいことに近年、分断の種を蒔く指導者も目立ちます。私が子どもの頃は、道路整備などは地域総出で行い、ひどいいたずらは近所の方からこっぴどく叱られました。でもそれは繋がりが地域にあり一緒に育ててもらったということです。社会のあり様を見直す必要があるのでは？　皆さんはどう感じておられますか？

【支部長】

前原東中学校人権作文

「人権はみんなの権利」

木村　淳

私は、外国人に対する差別や偏見について考えました。この問題について考えた理由は、この間行われた参議院選挙の時期に、いくつかの政党が外国人在留者に関してネガティブな発信をしているのを見て、その内容について疑問に思ったからです。

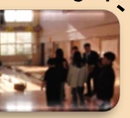


これらの政党が主張していることは、「日本人ファースト」「外国人による土地や不動産の取得制限」「労働力としての受入制限」などで、他にも「外国人による犯罪が増えている」と結論付ける言い回しもありました。私はこれらを差別的な発言と捉えました。

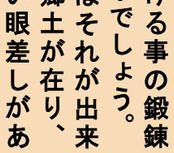
人権とは、誰もが持つ権利です。



それは、大人も子どもも、男性も女性も、自国民も外国人も、全ての人が含まれています。だから、特に政治活動の中でそれを攻撃することは許されないことだと思います。



もし仮に「日本人ファースト」という方針が学校で適用されたらどうなるか、考えてみました。まず、学校で配られる教材を、外国籍の生徒はもらえない。あるいは、日本人生徒に先に配られてから、後から外国籍生徒の順が回ってくるということがありえるのではないでしょうか。給食の時間には、日本人に先によそって、残りをもらうのでしょうか。授業中に気分が悪くなったり、けがをしたりしたら、日本人生徒が優先された後にやっと治療してもらえるのでしょうか。



これはさすがに考え過ぎと思う人もいるかと思いますが、政治家など影響力のある人たちの発言にならって行動をする人は少なくありません。実際に選挙の前日に天神の公園に集まっていた政党の支持者たちが、「NO○○人」などと叫んでいたところを見た人から話を聞きました。そのような排他的発言が、対象とされた外国人への差別や暴力につながらないとは言えないと思います。



このような言葉は、社会で人の優先順位を作ってしまうし、問題の解決にはならないと思います。そんな社会では、人権は守れません。なぜかというと、標的が変わって、別のグループが差別される可能性があるからです。人間は、どうしても「似たもの同士」でグループを作って「似ていない者」を自分たちから区別したがる習慣がある、と聞いたことがあります。それは差別する側からしてみれば、自分たちの立場や権力や富などを守ることが目的なのでないかと思います。しかし、そのような社会は安定しないし、長くは続きません。それは世界の歴史が証明しています。



私はこの作文を書く中で、誰でも自分が普段使っている言葉には、気を付けなければならない、と考えました。また、一方的に誰かを敵対視するのではなく、みんなが望んでいる「安心できる、安全な社会」をどのように一緒に築いていけるのかを積極的に考えて行動したいと思いました。

―怡土小学校人権学習―

授業参観と意見交換会に参加して

恒例となった人権学習の参観と意見交換会が今年も令和7年12月6日に開催されました。



1年生から6年生まで全クラスを短時間ではありましたが保護者の方と一緒に見学出来ました。

一クラス25～35名位で一学年2クラスずつ。

それぞれの担任の熱心な指導の授業が行われ、少なく表情で察する程度でしたが、人権学習の理解を進めるには日常の生活の中で差別・いじめ・仲間外し等当人には気が付かない中で、心ならずも傷つけているものです。

子どもたちの元気な姿が良かったです。

学習の内容を理解するには時間が

周りには優しい眼差しがあります。

今の社会は、SNS・AI等世の中の進歩に負けるなく、弱者に寄り添い、心豊かな感性を身につける事でしょう。

怡土っ子にはそれが出来る素晴らしい郷土が在り、



小さいうちから人に優しさを習慣づける事の鍛錬が必ずしもよいことは思えない時代です。便利な物に心は育ちません。

子どもの土台は「大きく大きく」作って欲しいと思います。



参観後の意見交換会では、子どもたちを共に育てるために地域と学校がどのように連携するのが良いのか等について話し合うことが出来ました。

次回参加の機会が有りましたら、じっくり授業を聞きたいと思います。

【井田行政区推進委員】



言葉はね
凶器にもなる
考えよう　S・S

朝からね
ちいきの人に
あいさつを　K・T

ぜったいに
たいせつにしよう
ともだちを　S・S

命はね
いちどおとすと
かえらない　K・T

「ありがとう」
たった一言
ぽかぽかに　Y・S

ともだちは
たすけてくれる
ヒーローだ　M・T

いっつも
しゃべる
お友達　M・S

だいじょうぶ
しょうがいあっても
みな仲間　M・T

思いやり
かんしゃのきもち
大事だよ　S・S

あいさつを
すればするほど
いい気持ち　F・T

だいじだよ
みんなのいのち
だいじだよ　Y・S

友達と
いっぱい遊ぶの
楽しいな　A・T

あいさつは
人の心を
あたたかく　Y・N

なやみごと
はなしをきくよ
おたすけだ　A・T

友達と
いっしょにあそぶ
思いやり　H・T

あいさつは
たいせつなこと
こんにちは　M・T

お母さん
すてきな名前
ありがとう　N・T

友達と
なかをふかめて
大切に　J・T

そのことば
ほんとにいいの
かんがえて　I・T

思いやり
相手のことを
考えて　M・H

友達は
みんな仲良く
たのしもう　Y・N

友だちは
きずつくために
いるんじゃない　M・T

ともだちに
あいさつされて
たのしいな　R・N

ありがとう
そう言えるだけ
うれしいよ　M・N

いじめはね
してはいけない
絶対に　K・N

質問です
いじめのなにが
楽しいの　S・T

いじめだめ
人の気持ちも
考えて　H・N

あいさつは
ちゃんと目を見て
やるんだよ　K・M

いじめはね
人をきずつける
だめなこと　K・M

あいさつは
元気のとびら
ひらくんだ　N・H

友達を
いじめないよう
大切に　A・F

いのちはね
みんなで守ろう
大事だよ　H・H

いじめはね
自分も人も
きずつくよ　M・N

考えよう
命を守る
大切さ　Y・F

あいさつは
みんなのこころ
ぽかぽかだ　N・T

ともだちに
やさしくされて
うれしいな　Y・H

みんなで
元気にあいさつ
してみよう　C・N

ありがとう
そういわれると
うれしいな　K・H

令和7年度の活動を振り返って

校区の皆様のご理解とご協力のおかげをもちまして、令和7年度怡土支部の活動が円滑に、そして有意義に取り組むことができましたことを感謝申し上げます。

一年間の活動のすべてをここで紹介することはできませんが、7月の「同和問題啓発強調月間」での人権講演会と12月の「人権週間」での人権映画祭では、会場の関係もあり、事前申し込みをいただくこともありましたが、会場一杯になるほどのご参加をいただき、ひろく校区の皆様に「人権」について深く考えていただく機会となりました。



令和8年度も伊東山支部長を中心にしながら、校区の皆様に楽しく「人権」についての学びを深めていただけるような事業内容を考えていきたいと考えています。

しかし、「人権」を取り巻く状況はまだまだ厳しいと捉えています。

怡土支部としましては、現実をしっかりと捉えながら、一歩一歩人権問題の早期解決に向けて取り組みを進める必要性を感じています。

令和8年度も、校区の皆様のご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。

【怡土校区指導員　山田一郎】